

令和5年12月1日 発行
(株) ニーノコーポレーション
扶桑町大字芥藤字緑223
(0587) 93-7833

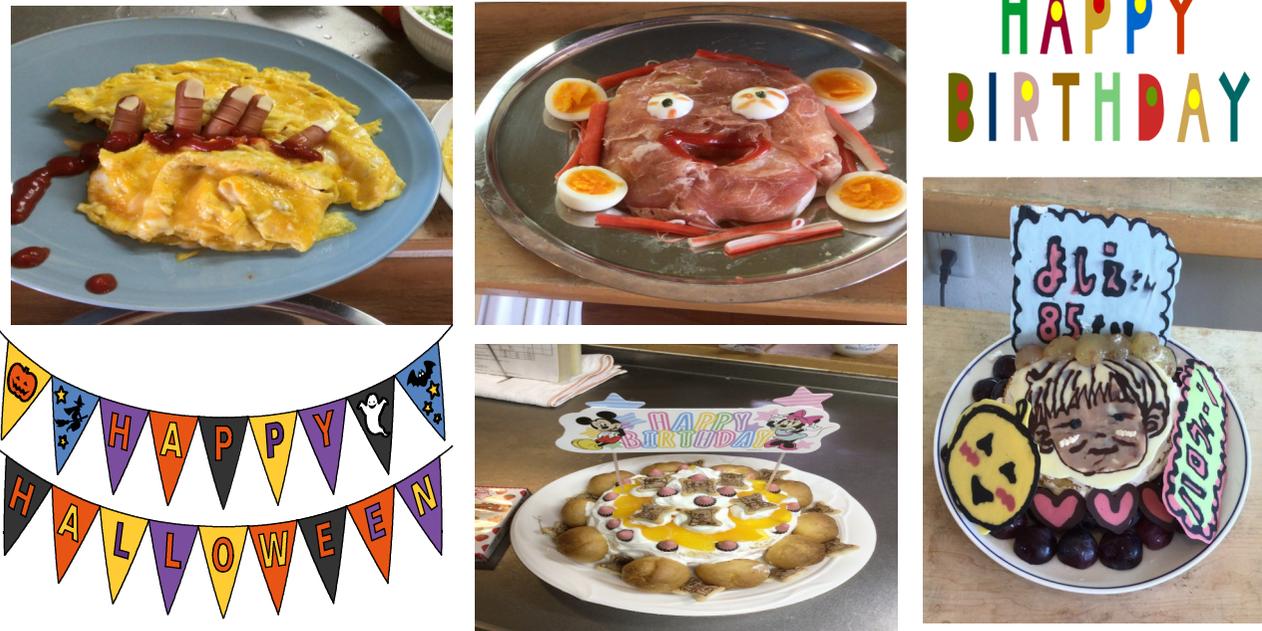
『フラワーパークへお出掛け』

10月に入って気候が良くなりましたので、フラワーパークを散策してきました。コスモスが見ごろでした。20センチ程の背の低いコスモスもあって、新たな発見がありました。今年もハロウィンの飾り付けが施されており、季節のお花以外にも楽しむことが出来ました。



『行事食』

はなえくぼ江南の北館にはキャラ飯を作るのが得意な職員がいます。オリジナルのデザインでイベント時の食事に花を添えてくれています。ハロウィンの時期であった10月の誕生日会。ハロウィンと誕生日会をくっつけて行うことにした結果、普段ならキャラクターの可愛いおいしそうなお祝い膳になるところが、何とも言えない料理になってしまいました。その分(?)お祝いのケーキは素敵な物になりました。



『認知症治療薬レカネマブ』

新しい薬が厚労省によって薬事承認された場合、遅くとも90日以内に薬の値段を決めて、医療保険適用で我々の手元に届くようにするルールがあります。

新しい認知症治療薬として注目を集めたレカネマブ。アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβを取り除く効果があり、18ヶ月の投与で、偽薬投与と比較して約27%程度の悪化抑制を示しています。そのレカネマブが、9月25日に新しく薬事承認され、12月末には医療保険適用で我々の手元に届きます。

使用方法は2週間に一度一時間程度の点滴。すでに使用が始まっているアメリカでは、1人当たり年間26,500ドル、これをそのまま日本円に当てはめると、約390万円となります。

『気持ちに寄り添う対応を』

認知症ケアの基本として傾聴と受容というものがあります。認知症の人の話しに耳を傾け、発する言葉ではなく、どんな思いからその言葉が発せられているか感情を理解して、接し方を工夫する方法です。

例えば、数か月前は「医者に行きたいから連れてって」と訴えていましたが、最近「医者に連れてって欲しいから家に電話して。」と繰り返す認知症の人がいた場合の対応を考えてみましょう。まず傾聴の準備をします。2人で座ってゆっくり話しをしましょう。この環境を作ることがポイントで、あなたの話しをしっかりと聞きますよ、というアピールになり、安心感を与えます。傾聴ですので、本人の話しをしっかりと引き出します。元気づけようとしたり気を紛らわせようとして、関係ない話しを介護者が一方的にしてはいけません。会話の糸口として、気になるポイントを探します。「医者に連れて行って」ではなく「家に電話して」の部分から、「家族に話したいことがある」という事に気づくことができます。受容とは感情を理解する事ですから、どんな感情を発したいかを聞き出します。その感情をケアしてあげれば良いことが分かってきます。介護者の対応も、「医者に行きたいのは分かったから家族に電話しとくね」ではないことが分かりますよね。

数か月前の「医者に連れてって」という訴えから、「医者に行きたいから家に電話して」に訴えが変化してきているのもポイントとなってきます。このお話はまた別の機会に。

次回は、はなえくぼ扶桑便りです。どうぞお楽しみに！



グループホームはなえくぼ扶桑
丹羽郡扶桑町大字柏森字辻田398
(0587) 91-0110
グループホームはなえくぼひくみ
犬山市大字五郎丸字郷瀬川17番地1
(0568) 68-8096

グループホームはなえくぼ江南
江南市小杵町長者毛西132番地
(0587) 52-3808
はなえくぼのホームページ
www.gh-hanaekubo.com
ブログも時々更新しています